

第1回内丸地区再整備検討懇話会 議事要旨			
日時	令和4年8月17日(水) 15:00~17:00	会場	盛岡市総合福祉センター 3階 子供会研修室
出席者	懇話会委員	国立大学法人岩手大学理工学部教授 財務省東北財務局盛岡財務事務所長(代理:同事務所管財課長) 岩手県ふるさと振興部長 学校法人岩手医科大学医学部長 株式会社岩手銀行取締役常務執行役員 株式会社岩手日報社常務取締役執行役員総務局長 株式会社北日本銀行総務部長 宗教法人櫻山神社宮司 株式会社テレビ岩手常務取締役経営企画局長兼技術局長 株式会社東北銀行支店統括部部長執行役員 東北電力ネットワーク株式会社盛岡電力センター所長 東日本電信電話株式会社宮城事業部岩手支店長(代理:同副支店長) 三田農林株式会社取締役社長 盛岡市商店街連合会副会長 盛岡商工会議所専務理事 盛岡市副市長	
	盛岡市	都市整備部長 都市整備次長 企画調整課長 管財課長 交通政策課長 都市計画課長、課長補佐、副主幹兼土地利用計画係長、同係員	
	UR都市機構	東北まちづくり支援事業所長、まちづくり支援課主査	
	受注者	(公社)日本交通計画協会、(株)国際開発コンサルタンツ	
(内容)			
<p>●座長及び副座長の選任 座長を南正昭委員、副座長を菊池透委員にすることで了承された。</p> <p>●協議事項等 (1)、(2)及び(4)の項目について、資料1、2及び4により、盛岡市都市整備部長が説明。 (3)の項目について、資料3により、UR都市機構が説明。</p> <p>●質疑応答・意見</p> <p>岩手県 : 主な検討としてエリア設定、機能・施設配置、土地利用方針等が示されているが、具体的に個別の建物の配置まで踏み込んで検討するのか、あるいは行政エリア、商業エリア等の大きなくくりでの方向性を示すのか。</p> <p>→事務局 : 今の段階では、それぞれの施設の整備の考え方もあり、個別の整備の方向性までは示さず、大きなゾーニングのプラン、コンセプトの考え方をまとめたい。</p>			

岩手県 : 懇話会のスケジュールでは次回が来年の3月となっている。その間、実務者会議など検討会が開かれるようであるが、検討項目も多岐にわたっており、別途、懇話会として意見を述べる、あるいは、書面提出等ができる機会があるか。

➡事務局 : その間、実務者会議を開催する。実務者会議を通じて意見をいただくほか、別途情報提供をするので、意見をいただく機会を設けたい。

岩手銀行 : 今回のプランでは官公庁などの公共施設だけでなく、民有地に対しても提言を行っていくのか。

➡事務局 : 内丸地区は官庁街であるとともに、医療施設や民間事業者も立地しており、官民が連携したプランを検討していきたいと考えている。

商店街連合会 : 内丸地区の将来像を描いていくうえで、メディカルセンターの整備、医科大学附属病院の跡地整備をどうするかが大きな要素となると感じている。医科大学が描いているメディカルセンターの将来ビジョンと、どう整合性をとっていくかが大きな課題と思っており、考え方を聞かせてほしい。

➡岩手医科大学 : 岩手医科大学の跡地は2haあり、活用策は内丸プランのポイントになると認識しており、跡地利用は県・市・地区のみなさんと協議してきた。現時点では1号館を記念館として保全整備する方針である。その他については決まっていない。内丸地区の一体的整備の検討のなかで、みなさんのご要望を受け止め、柔軟かつ前向きな対応をしたいと考えている。附属病院の跡地を活用するには、内丸メディカルセンター新棟の早期開院が必要となる。新棟は現在の歯学部敷地での建設を予定しており、現在の病院機能を新棟に移転できれば跡地利用が始められるが、コロナ禍など社会情勢もあり進めるのが難しい状況でもある。新棟建設に向けた方針についても検討いただけると幸いである。

商店街連合会 : URが施行した盛南開発は右肩上がりの時代の計画であったが、現在は人口減少社会など、時代が変わっている。内丸地区の検討にあたり、盛南開発での当初の整備方針がどのような狙いだったのか、そして現在どうなっているのか。夢を語ることも重要であるが、反省点などの確認も必要ではないかと思っている。

➡事務局 : 盛南開発は、人口増加、交通の要衝という特性を生かして発展していくことを見据え、計画的市街地整備の計画としていた。現在の中心市街地を前提として、さらに新しい機能の受け皿として都心を伸ばしていくという考え方である。現在はコンパクトシティ化を進める必要があり、立地適正化計画を策定し、都市機能誘導区域を形成する方針としている。これからは、都市拡大の方針から既存市街地の再生整備として、コンパクトで持続可能な都市づくりの方針としている。

三田農林 : 気候変動などから毎年の収穫量も減ってきている。また、ウクライナの情勢からの農作物への影響もあり、国内で収穫を確保していくことを考えていかなければならない。水、エネルギー供給の問題を考慮し、それらの制約の中で検討していく必要性を感じている。今後は水・エネルギーが十分に供給されないということも念頭に置いて検討する必要があると感じている。

: 建物の更新に際して、解体時のアスベストの問題等から売却額が割に合わないという話も聞く。新設整備だけでなく、既存建物の活用の方向性の検討も必要である。

- : 災害危険性の高いエリアに市役所が存在することがダメなのか。ピロティを高い位置につくり嵩上げするなど、市役所の配置についても検討をしたい。
- : 地図だけを見て検討してはいけないのではないか。駐車場が増えてきている裏路地の状況など歩いてみて回りながらプランを考える必要がある。
- : 岩手県は森林県であるので、新施設での木造建築物の導入やバイオマスなど、自然エネルギーの活用も検討したい。
- : コンパクトシティの検討については高度なノウハウが必要であり、URなどが持つ技術の活用と盛岡らしさについての突き詰めた議論が必要である。

●協議事項(5)のコメント

- 副市長 : 整備の機運が盛り上がってきているが、盛岡は藩政時代から中心市街地としての歴史があり、100年後の盛岡を睨んだプランを検討したい。個々の施設の整備では限界もあるので、共通認識をもとに一体的な整備をしていく方向でまとめていきたい。
- : 市庁舎の建替えの検討が市民や有識者の意見を聞きながら進められている。整備候補地が内丸地区のほか2か所挙げられているが、内丸プランとの整合性を図りながら進めたいと考えている。
- 商店街連合会 : 商業者の立場としては、立派な内丸プランを策定し、新たな建築物が出来ても、そこに人がいない、商店がなくなっていくということにならないよう検討を進め、商業の活力を次世代に繋げたい。
- 三田農林 : 資料の目標設定には概ね賛成であるが、検討が机上のこととならないよう、現地を良く見て検討を進めるよう留意してほしい。
- 東日本電信電話 : 自社建物も老朽が進んでおり、用地の活用の検討を進める必要があると感じている。プランの目標を意識しながら意見交換をさせていただきたい。
- 東北電力 : 事業化に向けた工程の中で、供給設備を計画に合わせて検討していく必要があると考えている。建物のリニューアルに合わせて建物全体でのエネルギー利用効率を向上させるアイデアも併せて検討していきたい。
- 東北銀行 : 今後、通信・エネルギー関連の技術が進んでいく中で、企業のビジネススタイルや個人生活の様式も大きく変わっていく流れを意識する必要がある。まちづくりの議論の中でも中心市街地に人を惹きつける方策が必要であり、未来を見つめた議論を行っていきたい。
- テレビ岩手 : まちの魅力を高めるため、イベントや文化活動など、高齢者を取り込んで活性化を図るまちづくりの検討が必要である。自社の建物も、そろそろ更新の検討が必要な時期にかかってきており、今回の検討でのガイドラインに合わせ、複合化など長期的な展望で考えていきたい。昨年度のフォーラムに参加する中で「50年先のことを考える」という発言が印象に残っており、直近の売上だけでなく、長期的な視野での活性化を考えていきたい。
- 櫻山神社 : 櫻山参道地区は、大手先・内丸・河南と連続した盛岡ならではの中心に位置している。一方、規制がある中ではあるが、建物やライフラインなどの老朽化も進んでいるため、今回の検討に合わせた更新を考えていきたい。

北日本銀行 : 今回の提案では、内丸地区の将来イメージが作り易いものになっていると感じている。プランの検討を進めることで、市民の機運も高まっていくことを期待したい。さらに、あらゆる分野の方の意見を取り入れることで、ますます良いプランになっていくと思われる。ここでの検討結果の発信力を高め、市民の理解度を高めることで、これからも盛岡で暮らしていきたい、盛岡に住んでみたいと思ってもらえるようなまちづくりに携わっていきたい。

岩手日報社 : 自社建物も築60年が経過しており、毎年修繕箇所が発生している。内丸プラン策定後にはできるだけ早く具体化を進めてほしい。土地高騰、資材高騰している現在の状況では内丸地区ではやっていけない民間企業も出てくる。市民への情報発信により、できるだけ早く一緒に進めていくことが大事だと考えている。

岩手銀行 : 現在、弊社では内丸プランに先駆け、グループ会社の集約を進め、地域に繰り出す人を増やす施策を進めている。盛岡らしさについては、大学病院、行政、金融、メディア、通信、消費者、農林業など主要メンバーが狭いエリアに集約していることが盛岡の強みと考えられる。さらにソフトパワーも挙げられる。これらをどのように繋げていくかが問われている。当事者意識をもって検討に参加したい。

岩手医科大学 : 内丸地区の再整備に最大限協力していきたい。また、建替えや機能更新に際し、様々なメンバーの意見をいただきたい。内丸地区及び周辺で不足しているMICE施設の検討も盛り込んでいただきたい。

岩手県 : 内丸地区のポテンシャルを考えると、盛岡市だけでなく岩手県全域、北東北地域、国内外を見据えた長期的なプランとして議論を進めていきたい。また、DX等の社会情勢に対応した柔軟性のあるプランとしたい。  
: 議論の取りまとめにあたっては、個々の検討内容や意思決定の状況を考慮して、専門家や市民の意見を聞きながら丁寧に進めてほしい。

財務省 : 盛岡合同庁舎、内丸地区内の施設など築年数が経っており、その他、国の施設や機能が点在している。財務省としては各省の調整役となっているので、それらの機能をどうするかも合わせて検討したい。

盛岡商工会議所 : 農地を開発して都市化する時代ではない。現代の都市計画を進めるにあたっては実務者会議での議論が重要である。事務局となる盛岡市には、注力して取り組んでほしい。

座長 : 盛岡市民は、まちづくりへの参加意欲が高く、作り出すもののクオリティも高い。これまでのまちづくりの歴史の中で意識づくりが行われてきたと考えられる。今回の検討でも、これらの潜在能力を引き出して将来に残すものに関する議論を進めたい。

●その他

次回の懇話会は令和5年3月の予定。

以上